



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
 特別支援教室 つばさ
 令和 6年 10月 2日
 つばさだより 第8号

十代の中盤に向けて、成長の荒波と中学校という「場」

9月18日に小学校と中学校連携の授業の一環として中学校体験がありました。当日は聖ヶ丘中学での体験授業や部活見学が行われ、参加の6年生も多くの刺激を受ける時間となりました。見学の際には支援教室の卒業生の姿もあり、「あっ先生！お久しぶりです」と声を掛けてくれる子もいました。体験授業を受ける小学生と案内や説明をしてくれる中学生の姿を見て、時に感慨深く、時に「中学校生活」という生活時間の濃さについて改めて考えさせられる時間でした。

体験授業は、教科に分かれての実施でした。「中学校仕様」の一斉指示で授業が展開されていきます。教室の雰囲気もシンプルで大きな椅子と机にどの子も少し気持ちが「ピシッ」となっていたように感じました。環境が変わるとはまさにこういうことで、そこに小学校との差を感じた子も多かったのではないかと思います。

部活見学は各学校のクラスを代表の中学生が順番に案内してくれる流れでした。運動系の部活の準備はそれぞれ中学生が自発的に行っていき、声をかけ合って展開されていきます。文化系の部活では、みんなで息を合わせたの演奏に取り組む姿。高度なイラストに取り組んだり、観察の成果を説明したりと、こちらも中学生仕様の活動レベルに6年生が良い刺激をもらっていると同時に、今回の見学で躍動する中学生の姿に「中学生ってこうなるんだよ!」という見えないパワーを強く感じました。ただ、このレベルの中学生生活の濃さを日々続けていくにはすごいエネルギーが必要になるんだろうなあと大人目線で見えてくる一抹の「心配」も感じました。十代の中盤に向けて、子供たちの体と心は日々大混乱の中で成長していきます。この心と体の状態プラス日々やることや目の前の課題はやはりたくさんあるんだろうなあと想像します。中学校生活の1日を簡単に並べてみると以下のような流れであると思います。

・9教科50分授業×6(1日平均)+部活(放課後)+習い事(人によって)+定期考査対策(自学習での対策が基本)+土日部活(場合によって)+複雑化する(良くも悪くも)対人関係+イライラ(時々)

1日の拘束時間は基本7時30分～18時30分くらいで、週5日間(部活が入ると6～7日)の集団生活パフォーマンスになるでしょうか。「学校生活」としてこうした生活を漠然と捉えると毎日を自然にこなすことも当たり前と感じてしまうこともあります。ただ同時にこの「中学校生活」を元気に滞りなくこなしていくのは、少し客観的な考え方によっては子供たち(周囲の大人ももちろんですが)の「がんばり」と「努力」の繰り返しによるところが大きいかもしれないとも感じました。

今回、十代の多感な時期を「全力少年・少女」して駆け抜けて成長している子供たちのキラキラする一面を見学させてもらいました。そこにはかつて支援教室を利用していた卒業生たちの成長した頼もしい姿もありました。この光景に改めて子供の成長ってすごいなあと感じつつ、日常に目を戻せば、苦勞しながら悩みながら「今」を駆け抜けている子もいるのだろうとここでも想像します。十代成長の荒波の中、「無理しないでね」「健康に気を付けてね」「時には休んでね」そんなエールも送りたくなった中学校体験・見学の時間でした。

